

会議等名	令和元年度 第2回 海老名市総合計画審議会
日時	令和元年5月28日(火) 13:00~14:25
場所	海老名市役所 3階 政策審議室
出席者	<p>委員：大坂委員、加藤委員、鴨志田委員、桐生委員、佐藤委員、曾根委員、藤田委員、柳下委員、内山委員、勝田委員、杉山委員、館委員（欠席：小林委員、深須委員）</p> <p>事務局：財務部長 柳田理恵  財務部次長 告原幸治  財務部参事兼企画財政課長 清田 聡  企画財政課主幹兼政策経営係長 川崎 宗一  企画財政課政策経営係副主幹 志村 政憲  企画財政課政策経営係主任主事 関野 大輔</p>
<p>1 開 会</p> <p>2 海老名市次期総合計画策定に向けた中間答申について</p> <p>3 議題</p> <p>(1) 第1回パブリックコメントの結果報告  第1回パブリックコメントの結果について、事務局より報告。  &lt;質疑・意見等&gt;  特になし</p> <p>(2) 海老名市次期総合計画素案について  海老名市次期総合計画素案について、事務局より説明。  &lt;質疑・意見等&gt;  委員：海老名未来創造プラン 2020 の計画策定の視点に入るかと思うが、市民は総合計画ができた段階では関心を持つものの、だんだん関心が薄れていってしまうように感じている。抽象的でなかなか理解が難しいというところに原因があるように思う。  委員：市長選挙によるマニフェストの政策と総合計画がどのような関係にあるか関心を持っている方が多いので、その関係性について整理すべきと考える。  委員：「第2章 まちの姿」の「2 位置・地理的条件」の中に丹沢や富士山の遠景も素晴らしいということを入れたらどうか。</p>	

事務局：駅周辺や海老名インターチェンジの開通など、まちが大きく発展していく中、総合計画では海老名市全体を見ていることを伝えたいと考えている。委員の言うとおり、富士山や大山は海老名の原風景であるように思う。眺望個所から撮影した写真を掲載することによって、そのところを忘れないようにしたいと考えている。

委員：交通条件について、小田急線、相鉄線だけでなく、最近、湘南に向かうサーフィン客に利用されている相模線についても記載してはどうか。海老名市のポテンシャルや最近の動向について、多くの方が関心を持っている。市民や行政以外の方が目にする場合もあるので、売り込む一つの手段として捉えていただきたい。

事務局：茅ヶ崎から相模川に沿って相模原まで向かう南北の路線があまりないことから、相模線は非常に重要な路線だと思っている。2027年にリニア橋本駅が開通すると、ますます相模線の重要性は高まるだろうと考えている。

委員：2019年11月30日には相鉄線、JR線との相互直通運転が開始され、湘南新宿ラインが新宿、川越方面までつながる。3年後の2022年には相鉄線と東急新横浜線が直通線開業する。さらに、2027年にはリニア新幹線が橋本駅で開業する予定だ。そのような変化に対して、海老名市がどのように対応するか書いておいたほうがいいのではないかな。

事務局：交通計画については、大きく計画をまとめるといった形で位置付けられている。具体的な政策については、交通計画・交通政策にて決めていく。総合計画ときちんとリンクさせながら整理していきたい。

委員：海老名市の公共施設再建計画では、今後の人口減少を考えると公共施設の床面積の約20%減が必要であるということだ。今までとは違った発想で新しい施設を造らなければならない。市が施設を建設し職員を配置して所有する時代から、民間とのコラボレーションや賃貸によって利用をするという時代になってきている。今から公共施設の在り方について、提起をしてもいいのではないかな。

事務局：今後40年で公共施設をどのように再編するか、公共施設再編計画を策定している。全国的には人口が減少するなか、海老名市では人口増加している。しかし、いずれ減少に向かうことを踏まえ、終わりを見据えた運営が必要だと考えている。

委員：「2-3 地域福祉の充実」に関して、一人暮らしの高齢者が増加していくことを考えると、地域コミュニティについても10年後を見据えていくことが必要だ。また、地域包括ケアシステムをしっかりと確立していくということについても盛り込むべきではないかな。

事務局：「1-1 地域社会と市民参加の活性化」の目指す姿に「各自治会の自主的な地域活動が活発に行われるとともに、市と自治会との共同により住みよい町づくりを推進されています」、「世代を超えた交流が図られ、市民一人ひとりが自立し行政参加ができる」とある。市民と行政の共同事業を推進して、誰もが住みやすいまち、コミュニティにしていこうと、理念的に記載させていただいた。

委員：「4-4 まちの拠点整備」について、海老名駅周辺についてはさまざまな施策、方針が出てきているが、厚木駅周辺についてあまり触れられていない。小田急線、相模線の交通のスタートでもあり、整備することによって人口を呼び込むことも大いに期待ができると思う。

事務局：庁内においても指摘があり、まちづくり部の担当課と調整している。次回の審議会に調整した結果をお示しさせていただく。

委員：SDGs に関して、総合計画と同じ時期の 2030 年をゴールにしている。だが、一市町村で取り組むには、テーマが大きすぎるように感じる。これをどのような形で総合計画に掲載していくか考えておく必要がある。

事務局：SDGs は、国連で採択された 17 の目標で、とても大きなものになっている。市としては、この目標をストレートに達成するために政策を掲げているというよりは、市の政策によって、SDGs の 17 の目標に貢献できる、という意味で掲載をしている。

自治体レベルで力を入れていき、それが県全体のものになり、県全体が力を入れていくことで国全体になると考えれば、一市町村が総合計画の中で関連付けるのは意味があることなのではないかと考えている。

委員：海老名市が住みやすいのは、農地や森林などの緑が豊かであるからだと思う。しかし、農業や森林についての記述が非常に少ないように感じる。

事務局：確かに分量という意味では少ないように見えるかもしれない。これに何か加えられるような内容があるのか関係課と調整したい。

委員：既存の駅開発、充実はもちろん重要だが、海老名駅と座間駅の間あたりでは、宅地開発が非常に盛んである。海老名全体の地盤から言うと非常に地盤が固いので、非常に効果のある開発だと思う。そこに駅を増設することによって、人口増加に非常に役立つだろうし、住民の利便性を増すことになるのではないかと。

事務局：新駅等の要望については、この新総合計画の中に直接記載するというよりも、それに関連する個別計画に委ねる考えである。

委員：SDGs については、分かりやすいと思う。普通は SDGs に 17 のゴールがあることは、あまり知られていない。海老名市が計画に関連付けて、市民の気持ちがここにつながるという意味では、有意義なことだと思う。

委員：「第2章 まちの姿」の中にある、外国人の人口について、国籍の内訳しか出ていない。外国人がどういった目的で海老名に住んでいるのか。研修や結婚をしてここに住まわれている主婦の方であるのか、別の海老名市内で働いている外国人なのかという内訳がもしあるのであれば、そういったことも見ていくと、外国人に関する課題を解決できるのではないか。

事務局：現在、外国人の方の滞在目的まで掘り下げて確認は行っていない。それに基づいて分析等ができ、総合計画につながってくるようであれば検討させていただきたい。

外国人に関する統計は、住民登録などの資料に基づいて計算されている。どうして海老名市に来たかといった個人の話になると調べるのは難しい。外国人団体や外国人関係の部署を通して、海老名市がどのような傾向なのかは聞いてみたいと思っている。

委員：「第4章 海老名市を取り巻く社会動向」の「5 高度情報化の進展」の項について、IoT等の言葉は普及してきているので、AIや5Gといった新しい言葉も入れておいたほうが、新しさを感じるのではないか。

事務局：世の中にどのような新技術があるのか、それが社会にどのように影響してくるのかは難しいところだが、載せられるところはなるべく載せて、10年後に、このときにはこういった言葉を使っていたのだと分かるようにしたい。参考にさせていただく。

委員：「地産地消」という言葉があるが、「地産地働」、地元の企業で地元出身者が働くという発想の言葉を提案させていただきたい。私ども世代の子どもたちは、東京で高等教育を受けたまま地元に戻ってこない。そのような若者に、しばらくしたらこちらへ帰ってきてもいいよという雰囲気をつくっていく必要がある。せっかく地元で育って、地元を愛している人はいるから、何かいいきっかけがあれば帰ってきたいなといった施策をぜひとも考えていただきたい。

事務局：「地産地働」という言葉の「産」は、働く場所も生み出すという意味と捉えてよいか。

委員：地元企業に地元出身の方が働く。生み出すということももちろんだ。昔は東京で働いたほうが、賃金が高かったが、現在はほとんど同じである。なので、地元に戻りやすい雰囲気づくりを行っていただきたい。

委員：外国人の受け入れについて、外国人が住める物件を紹介してほしいという要望をよく聞く。今後人口が減っていくなかで、外国人の受け入れも含めて、市としての方向性が示されると、よりよく増えていくのではないか。

また、空き家対策でも問題が出てきているので、市として受け入れ態勢を取っていくところが示されると、外国人も海老名市が住みやすいと思っ

てくれ、空き家が増えて困っている大家さんの助けにもなるのではないか。

事務局：「1-2 人々が尊重しあう社会の実現」における今後の方針に「全ての人々の多様性を尊重する」とあり、ここで理念的に表現している。「外国籍の住民が安全で…」というくだりも、外国の方の受け入れを考えていくというものだ。空き家の問題については、個別計画で取り組んでいくべきと考える。

委員：「1-1 地域社会と市民参加の活性化」の目指す姿の「市民活動の支援をする」とともに、えびな市民活動センターの運営も推進していきたい」という記載について、今後の方針には施設の充実を図るとあるものの、そこでの活動がどうなるのか記載されていない。

事務局：ソフト面についての言及がないという指摘だが、所管と調整をして、可能であれば追加したい。

委員：教育に関して、子どもたちを教育するのはもちろんだが、教員の確保もしっかりと行っていく必要がある。

事務局：教員についてだが、教員は神奈川県が採用している。今のご意見については教育委員会のほうに報告させていただく。

#### (4) その他

次回の総合計画審議会の開催予定について、事務局より説明。

第2回パブリックコメントの実施期間について、事務局より説明。

#### 4 閉会

以 上